

特別公開講演会

9

概要

「特別公開講演会」は、高岡短期大学の大学開放センター時代に著名な講師をお呼びして、地域住民と学生に幅広い視野と知識を与える機会を提供するためにスタートしました。大学開放センター時代に開催したのは次の内容です。

- 平成6年度 米長邦雄氏（前将棋名人）
「運を育てる」
- 平成8年度 立花 隆氏（評論家・東京大学客員教授）
「インターネットは社会を変えるか」
- 平成9年度 吉田蓼助氏（文楽人形遣い・人間国宝）
「女を表現する」
- 平成10年度 小沢昭巳氏（童話「とべないホテル」作者）
「現代若者気質 一若者にみる生きるとは」
- 平成11年度 中村桂子氏（JT生命誌研究館副館長）
「21世紀を生きる知恵 生きものとしての人間40億年の生命の歴史から」
- 平成12年度 山崎正和氏（劇作家・評論家・東亜大学長）
「情報化時代の大学」
- 平成14年度 大原謙一郎氏（大原美術館理事長・倉敷商工会議所会頭）
「地方の視点で『文化の世紀』を考える」
- 平成15年度 山口昌伴氏（GKデザイン機構・道具学研究所長）
「和風ものづくりの21世紀展望」
- 平成16年度 坂東三津五郎氏（歌舞伎俳優）
「江戸文化の華 歌舞伎における粋と意匠」

県内の国立3大学の再編統合後は、地域づくり・文化支援センターにおいて、特別公開講演会を引き続き開催いたしました。

なお、開催に要する経費については、毎年、富山県高等教育振興財団に申請し、補助金を受けています。

目的

地域の資源を生かしたまちづくりから文化活動支援に至るまで、地域社会の活性化と豊かな生活の醸成にお手伝いをする一環として、主として地域住民を対象に開催します。

また、当センターは、富山大学の全学組織であることから、広く全県下を対象とした講演会の開催を目指すため、開催地を富山市にしています。

内容

地域づくり・文化支援部門に移行してからも、地域住民の生活の中に豊かな感性を育むために著名な講師を毎年招聘し、特別公開講演会を開催しています。

●平成18年度 特別公開講演会

演題：「藝術は街を変える！」
講師：宮田亮平氏（東京藝術大学長）
日時：11月8日（水）13時30分～15時30分
場所：富山市民プラザ 4F アンサンブルホール

ご自身の素晴らしい作品紹介や街の風景に芸術作品が加わることで新たな街の景観を作り出し、地域を劇的に変えたり、賑わいを創出する事例等を紹介しました。



●平成19年度 特別公開講演会

演題：「地域再生」
講師：森永卓郎氏（経済アナリスト、独協大学経済学部教授）
日時：11月17日（土）13時30分～15時30分
場所：富山大学黒田講堂ホール

地域が生き残るヒントとして、地方のまちづくり成功事例やイタリアの事例にあげ、「地域の競争力を決定するのは、その地域の特性や土産になるのは何かということにある」と語りました。



●平成20年度 特別公開講演会

演題：古典が「現代」と出会うとき

講師：梅若猶彦氏（能楽観世流シテ方、静岡文化芸術大学教授、
ロンドン大学客員教授）

日時：11月1日（土）13時30分～15時30分

場所：富山大学黒田講堂ホール

能楽は、江戸時代まで盛んに行われていましたが、明治政府からは受け入れられず、圧力をかけられてほとんどの能楽師が職を失いました。一部の能楽師が復興させたことを紹介しました。



●平成21年度 特別公開講演会

演題：世界遺産建築とそこに生きる人々
—アジアの文化遺産から—

講師：古市徹雄氏（建築家、千葉工業大学教授、東京大学大学院
人文社会学系客員教授）

日時：11月21日（土）13時30分～15時30分

場所：富山県民会館 3F 304号室

世界遺産建築は世界中に点在し、それらは宮殿や寺院であることが多いが、アジアの世界遺産の中には、人々がそれぞれの風土の中で自然と共生する知恵を育みながら生み出してきた街や建築が多く見られることを説明しました。



特別公開フォーラム

近年、特別公開講演会を実施するだけでは、当部門が目指す地域社会の活性化や豊かな生活の醸成につながらないとの観点から、平成22年度は講演の後で、参加者を交えたディスカッションを行い、テーマに添った提言ができるようなフォーラムへと、内容を発展させ、開催することとしました。

●平成22年度 特別公開フォーラム

テーマ：子どもがつくるまちから考える「まちづくり」

演題：まちづくりの意識を育む「こどものまち」

講師：卯月盛夫氏（早稲田大学教授、一級建築士）

日時：11月13日（土）14時00分～16時30分

場所：富山市民プラザ 3F マルチスタジオ

日本で数多くの「こどものまち」が実施されています。「こどものまち」とは子どもたちがつくる模擬都市で、そこで「仕事」をし、「給料」を得て、それを自由に使う中でまちの仕組みを理解したり、将来のまちづくりの主体を育てることがねらいです。ドイツの「こどものまち」であるミニ・ミュンヘンを日本に紹介した卯月盛夫教授（早稲田大）の講演「まちづくりの意識を育む『こどものまち』」を得ることができ、ミニ・ミュンヘンの事例を示しながら、子どもたちの社会的な成長に対して「こどものまち」は有意義な活動であることが示されました。平成21年から、富山市でも「こどものまち」が運営されています。その責任者である武内孝憲氏を交えて、パネルディスカッションを行いました。富山の事例は商店街を舞台にしていますが、子どもの成長だけでなく、大人もまちや商店街の役割に気づくことができる活動であることが語られました。

